

アイヌ・アカデミックセンター

旧絵鞆小学校を活用した民族共生空間の提案

近年、世界各国で先住民族の文化回復・権利保護が進んでおり、特にオリンピック開催を契機として国を挙げてそれに取り組む傾向にある。しかし日本の先住民族の一つであるアイヌ民族に目を向けると、その取り組みは十分であるとは言えない。問題の一つにアイヌ文化を学ぶ環境の不足が考えられた。そこで文化観光を絡めたアイヌ文化継承学校を計画する。対象地は、アイヌ文化の歴史を有しながら、観光地として伸び悩んでいる北海道室蘭市絵鞆半島とした。本計画では廃校小学校を活用し、地元住民や観光客にとっての「アイヌ・アカデミックセンター」を創造している。「アイヌ・アカデミックセンター」はまちに賑わいを与え、日本の民族共生の第一歩となるだろう。



01 社会背景

目的

計画対象地

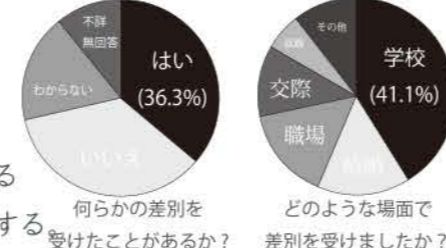
旧絵鞆小学校について

世界ではおよそ90ヶ国に3億7000万人の先住民が暮らすとされ、その衰退や減少が大きな問題となっている。これまで先住民の生活は、市場原理に飲み込まれ形で侵害・差別されてきた。しかし、近年、社会情勢は多様性を認め豊かな社会の構築へと変化している。その現れとして、リレハンメル(1996)バンクーバー(2010)リオデジャネイロ(2015)などのオリンピックにおいて先住民族の文化の保護・権利の回復などが行われた。

東京オリンピック2020を控える日本においても、北海道地域の先住民族であるアイヌ民族が注目を浴びている。「北海道アイヌ民族生活実態調査」よりアイヌ民族における文化の回復・権利の保護のために、正しい知識による文化学習と観光を含めた広い周知が必要だと考えられた。そこでアイヌ文化継承教育拠点を計画する。そして、多くの人々の文化理解により、アイヌ民族への格差や偏見を改善する一助となることを目的とする。

計画対象地は、アイヌ民族の長い歴史が存在し、将来的に北海道胆振地域の観光玄関口に成り得る北海道室蘭市絵鞆地域を設定した。現地調査から、地域住民に活用が望まれている廃校施設(旧絵鞆小学校)が独特な形態をもち、地域のシンボリック的存在になっていることがわかった。そこで、旧絵鞆小学校の活用を兼ねた施設提案が必要になると考えた。

絵鞆小学校は、昭和43年に建築家坂本鹿名夫によって建設された円形校舎である。坂本の手がけた円形校舎は、戦後のモダニズム建築の追求として再評価されている。しかしながら、その多くが老朽化し、取り壊しの危機にある。坂本の持つ設計手法は合理的な根拠に、荒々しくダイナミックな印象で人々の心に焼き付けてきた。



計画目的

利用プログラム

構造計画

市民参加プログラム

市民利用と観光利用を促す施設計画によって、アイヌ文化に触れる機会を増やす。

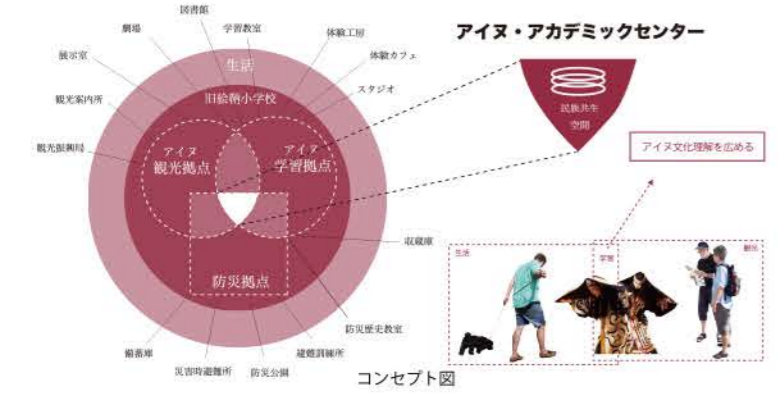
国立アイヌ博物館の学校として観光連携を図る

- ①アイヌ文化を包括的に学び文化継承者を目指す上級者コース
- ②アイヌ文化に興味があり、体験してみたいという初心者コース
- ③室蘭市の小学生を対象に課外授業を行うコース

目的に合わせ、劇場・屋内教室・屋外教室・地下教室・囲炉裏・図書室を使用。

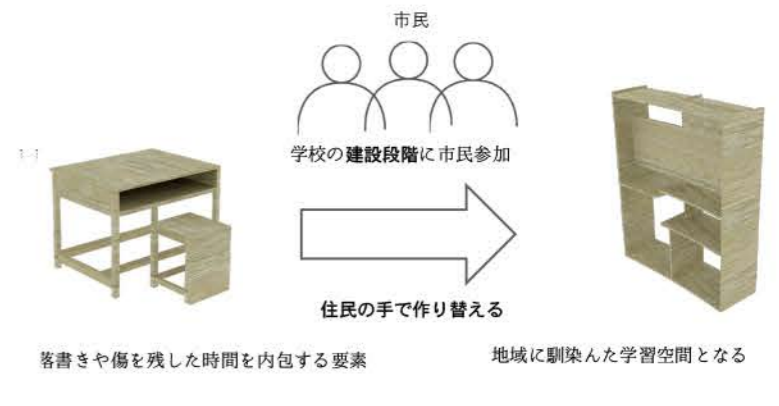
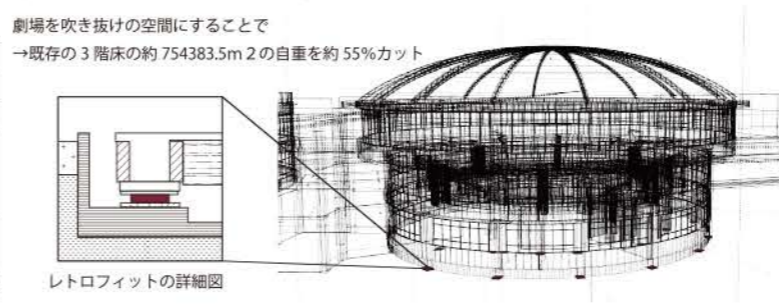
地震災害から、地域の避難場所を守るために、旧絵鞆小学校の円形校舎を免震レトロフィット構造によって免震化した。免震装置は、ゴムシートと鋼板を交互に積み重ねて圧着した積層ゴム支承を用いた。

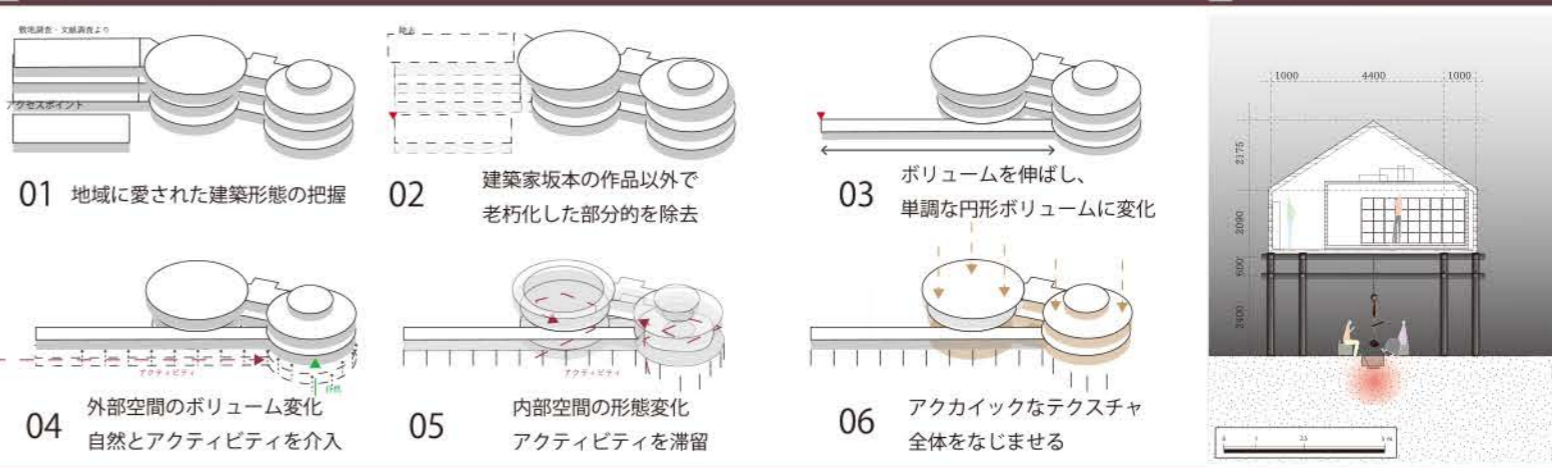
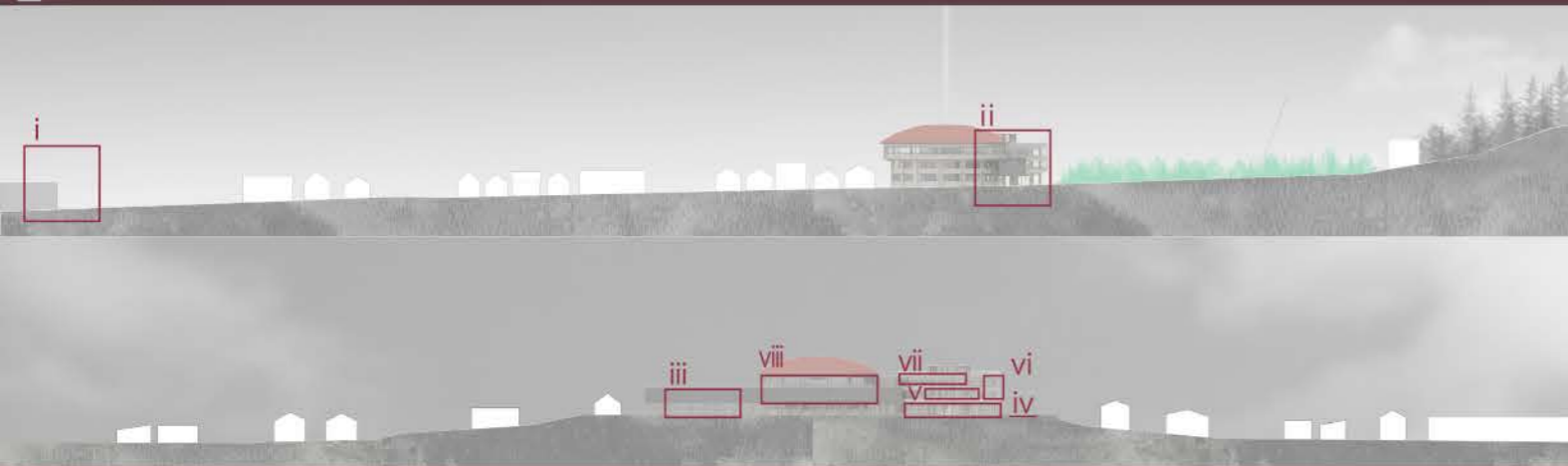
既存家具を使用した帰属意識。作り手に加わったという印象



コース	①	②	③
授業期間	1年間	1日~	学校の総合授業
開講日	平日	平日・休日	平日
授業内容	アイヌ文化を継承するため知識や技術を学ぶ	興味のある体験授業を選び自由に受講する	アイヌ文化を理解のため正しい基礎知識を学ぶ
利用者数	10名程度 (国立アイヌ博物館に勤務できる)	10万人名程度 (国立アイヌ博物館と連携)	平均1173名程度 (国立アイヌ博物館と連携)

国立アイヌ博物館の推定予想来場数(100万人)をもとに計画





文化体験のシーケンス

人の関係性・距離 低 ← → 高								
アイヌ文化の要素	儀式の煙	高床式倉庫	囲炉裏	屋外文化体験の場	歴史的遺物の展示	歴史的文献の閲覧	屋内文化体験の場	文化鑑賞の場
絵鞆小学校の要素	シンボル	ファサード保存	賑わい	螺旋階段	机や椅子	円の水平連窓	円の学習空間	円の体育館
学習者	文化のシンボル	文化体験のはじまり	囲炉裏の自由体験	体験授業等 (予約なしでも参加)	資料室	体験授業等 (予約要)	文化鑑賞 (予約要)	
市民	日常の風景	防災公園・まちのコミュニティスペース			博物館	図書館	サテライト学校	市民ホール

学習棟計画

1. 二層連窓
階層の一体化により、体験空間を表出させる。二面採光が可能となった空間は豊かな自然を室内に享受する。

2. 屋上庭園
屋上に鍋島山の自然を引き込んだ植栽を計画する。屋上は絵鞆地域を展望する展望台として機能する。

3. ピロティ
1階部分は既存壁を取払い、防災公園の緑とアクティビティを引き込んでいる。表出した螺旋階段は、施設のアイキャッチとなる。

劇場棟計画

4. 光の煙突
煙突は煙を高く昇らせ、まちのシンボルとなる。文化の狼煙は生活の何気ない風景となる。

5. 円形劇場
アイヌ文芸を鑑賞するための劇場。アイヌ文化に古来より継承される古式舞踊・祭儀の空間分析を行い、円形の劇場を計画。鑑賞者は、より演者に近い空間体験を行える。